

マリンビジョンNewsは、サロマ湖地域の1市2町で構成するマリンビジョン協議会が、自然環境と共生した明るい未来を創造する漁村づくりに向けた活動を紹介する広報紙です。

海明けの毛ガニ漁

3月23日、湧別漁港で、オホーツク海に春の到来を告げる海の幸「毛ガニ」が今年初めて水揚げされました。

毛ガニ漁は、その餌となるキュウリウオなどをカニ籠に入れて漁場となる海底に沈めておき、翌日にこれを引き上げて、籠に入った毛ガニを獲るものです。資源保護の観点から、メス、甲長8cm未満、そして脱皮直後のものは、海に返されます。このほか、漁のできる船の隻数、漁期中の水揚げ総量、1隻が使えるカゴの数にいたるまで厳しく規制されています。これは、美味しい毛ガニを毎年味わうために必要なことです。



転落事故防止

3月18日、紋別海上保安部と湧別町職員の7名で、志撫子と丁寧地区のサロマ湖沿岸をパトロールし、チカの氷上釣りを楽しむ釣り客に対して、湖下への転落事故の注意を呼びかけました。これは、2年前の3月19日、計呂地地区のサロマ湖沿岸において、氷上釣りに来た十勝管内の男性2人が、湖上を移動中に氷が割れて水中に転落し、結果として2名が死亡するという残念な事故がおきました。このため、サロマ湖において二度と転落死亡事故のないことを願い、昨年より啓発運動を実施しているものです。



学ぶことの重要性



2月5日、常呂漁業協同組合は、漁村センターで、講師に(社)北見管内さけ・ます増殖事業協会の松川専務理事と増川参事、北海道大学大学院水産科学研究院の五嶋教授と工藤准教授を招いて、20年ぶりとなる一日組合学校を開催しました。組合員・職員など28名の参加者は、さけ・ますの漁獲状況やホタテガイの成長に関する各講師からの説明に対して、熱心に耳を傾けていました。世代を超えて、常に学ぶことの重要性を再認識した一日でした。

1月28日、札幌市において、佐呂間漁業協同組合は、後継者育成事業「アクションプラン」を開催しました。この事業は、「人づくりと組織づくり」と「後継者リーダー育成」を目的とし、平成20年から実施しているもので、これまでにオホーツク海を含む自然環境を考える各種講演会への参加や、町内農協・商工青年部との交流などの幅広い活動を行ってきました。今回は、北海道信用漁業協同組合連合会職員とOBの方を講師として、漁業経営に役立つ講義と、サロマ湖の開拓史やホタテ養殖事業の開発についての講演を受け、先人の苦勞と努力を再認識し、今後の経営に活かす決意を固めました。



イベント情報

5月上旬～6月上旬にチューリップフェア(湧別町)、5月下旬にはオホーツク「木」のフェスティバル(北見市)、6月10～13日にでっかいどうオホーツクマーチ(北見市・網走市)、6月26日にはサロマ湖100kmウルトラマラソン(湧別町・佐呂間町・北見市)の開始が予定されています。

発行 サロマ湖地域マリンビジョン協議会

2011.3.31

編集 サロマ湖地域マリンビジョン協議会事務局

〒099-6404 湧別町栄町112番地の1

湧別町総合支所産業振興課内

Tel 01586-5-3763 ・Fax 01586-5-2283

Mail sangyo@town.yubetsu.lg.jp



